



昨年、合併前の旧山手村で公演された舞台。合併1周年を記念して、今年は清音地区で上演されました

迫真の演技に感嘆の声

市民劇団「温羅」が公演

総社の地域にこだわり、手作りの舞台に取り組んでいる市民劇団「温羅」が、新市誕生1周年を記念して2月26日、清音公民館で公演を行いました。演題は「それを夢と知らない」。舞台となったのは、客足が遠のいて閉館に追い込まれた映画館。いよいよ閉館する日にロビーで繰り広げられる人間模様を描いた作品です。劇団員らは、一つひとつのせりふや表情まで、真剣に演技をこなしていました。また観客らは、舞台上で繰り広げられる迫真の演技を、吸い込まれるように見入っていました。



子供から高齢者まで、熱のこもったステージを披露。世代を越えてイベントを楽しみました

笑顔と歓声が世代をつなぐ

ウインターフェスティバル

2月18日、きよね夢てらすで、ウインターフェスティバルが開催されました。このイベントは、青少年の地域活動を通じて世代間の交流などを図ろうと毎年開催。今年も清音地区の高校生4人が中心となって実行委員会が運営しました。会場では地元のボランティアなどの屋台村の外、ステージでは太極拳やロックバンドなどが出演。日頃の練習の成果を披露しました。この日ダンスを披露した、赤星萌音さん（清音小2年）は「ステージはとても楽しかった」と満足そうに感想を話してくれました。



表彰を受けた4人、左から 杉山さん、赤木さん、宇川さん、合田さん

県大生4人の業績をたたえる

総社市奨励賞

岡山県立大学生「総社市奨励賞」の表彰式が2月21日、市役所で行われました。この賞は、学習意欲の向上と市への愛着を深めてもらうため、その年の卒業生を対象に贈っているものです。今回受賞したのは4人で、杉山絵美さん（保健福祉学部）と赤木伸吾さん（情報工学部）はともに卒業論文が高く評価されました。また宇川千晴さん（デザイン学部）は学生からの信頼が厚く研究熱心なこと、合田果織さん（短期大学部）は岡山国体の飛び込み競技で4位に入賞したことから受賞となりました。



輝いている人

より良い暮らしができるよう、
社会のために提言したい

総社市奨励賞を受賞した

杉山絵美さん

岡山県立大学生の学習意欲の高揚と、総社市への愛着を深めてもらうために贈られる「総社市奨励賞」。今年、社会保障制度や年金問題を論点にした卒業論文が高く評価され、表彰を受けたのが杉山絵美さん（保健福祉学部保健福祉学科卒）だ。中学生のとき、明治から大正時代を、人間の尊厳をかけて激しく生きぬいた人々の生活を描いた「橋のない川」という本を読み感動。人権問題や高齢者の福祉に関心をもつようになったという。「困っている人がいるとじっとしていられない。世話をやいてしまうタイプなんです」とはにかむ。

そのころのことを振り返り、白い歯を見せた。杉山さんは卒業論文で、若者の年金離れや世代間格差の問題などについて、広い視点から議論する必要があると投げかけた。「私も本格的に研究を始めるまでは、社会保障制度にあまり詳しくありませんでした。でも研究を進めるうちに、その重要さが分かってきたんです。同じ年代の人たちが、年金問題などに無関心なのはとても残念なことです」と声を曇らせる。今後も、県大の大学院へ進学し、さらに研究を続ける。「子供や障がい者など、福祉全般に関する知識を一層高め、助けを求める人たちに、アドバイスができるようになりたいです。そして、社会福祉のために自分から提言ができるよう研究に励みたいです」と瞳を輝かせた。彼女の視線の先には、もう次の目標がはっきりと見えている。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじや編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。